

兵器生産の現場

豊川海軍工廠は、機銃とその弾丸の生産を目的として設立され、機銃部と火工部が造修部門の主力でした。開庁後、昭和16(1941)年12月に光学部が設置され双眼鏡・測距儀などの光学兵器が、昭和18(1943)年9月には指揮兵器部が設置され射撃装置などの生産も行いました。

○機銃部

艦船及び陸上用の十三糎・二十五糎・四十糎(試作)機銃や、航空機に搭載する七糎七・十三糎・二十糎・三十糎機銃を生産していました。三十糎機銃は、防御能力の高いB29爆撃機に対して威力不足の二十糎機銃に替わって生産されたものです。機銃及びその弾丸の生産工場として設立されたこともあり、海軍が使用する主要な機銃を生産していました。

○火工部

各種口径の機銃弾薬包(薬莖に弾丸部を取り付けた完成品)や信管などを生産していました。機銃と同様に、海軍が使用した主要な機銃弾薬包を生産していました。

○光学部

双眼鏡・測距儀などの光学兵器や、測程儀・磁気羅針儀などの航海兵器などを生産していました。

○指揮兵器部

指揮兵器とは、高角砲や機銃で敵の艦船や航空機を射撃する際の様々な諸元を計算する装置です。



弾丸防湿作業



弾丸包装作業



レンズ研磨作業



九六式二十五糎二連装銃架1号機、2号機完成記念



四十糎機銃第1号機完成記念

体験者の証言
私が配属されたところは、北門近くにあった火薬工場でした。火工部火薬工場、第二雷管工場と砲薬を作っていました……

体験者の証言
危険界の第一、装填工場主任から「時計信管組立場で雷管が爆発し、女子学徒が指に負傷しました……」

豊川海軍工廠は、その主たる生産品が消耗兵器である機銃とその弾薬包であり、戦局が激しさを増すとその大量生産が求められ、勤務体制は昼勤、2交替制、3交替制と各部署により異なりますが、工廠では24時間どこかで作業が行われていました。空襲警報や夏場の暑さなどで昼間に十分睡眠がとれない中での夜勤は工員らにとって大変つらいもので、休日返上で作業が行われることも多く、月に一日も休みのない時もあったようです。

生産工程においては、危険な作業を伴うこともあり、特に弾薬包で使用する火薬類の製造工場においては爆発事故が起きたこともあったようです。